

上宮津公民館だより

第54号
平成22年
7月20日

今こそ英知の結集を

公民館長 智原芳明

公民館長として二年目を迎え、これまでみなさまに教えていただき、支えていただいたことに感謝をしています。

お陰様をもちまして、年度当初からの公民館行事はすべて実施することができました。これも一重に公民館運営審議会の皆様の強靱な統率力による主体的な活動と、各会員相互の連帯の強さによるものと感じているところです。

高度経済成長期のもとで肥大した経済の付けと、不況、少子高齢化等が相まって、雇用、年金、福祉などで財政的な行き詰まりが顕在化してきました。

受動的な補助金頼みの事業運営の時代が終り、残された負の遺産にどう対処するのが各所における重要な課題となっています。

当地に限ってみても、高齢化に伴う医療、買物への交通手段の問題、上宮津保育所、小学校の再編の間

題、農業での労働力不足、鳥獣害対策など難問が山積しています。

そんな状況下にあつて、各種団体に於いては独自性を発揮し、個性ある取り組みをしていただいています。

一足早くから各種の活動を展開し、その実績が高く評価されています。上宮津21夢会議に加え、教育・保育施設再編問題を考える会、さらに今年度は上宮津地域会議が新たに発足しました。

「自分たちの地域は自らで創ろう」と英知の結集作業が着実に進められています。

一方で、今日のライフスタイルの変化に伴い個人の価値や要求も多様化しています。従って要望を全体の潮流としてまとめ上げ、地域経済を活性化させて豊かにし、よりよい生活環境にするには以前にもまして、困難性も伴っています。

だからといって手を拱いている場合ではありません。こんな時にこそ上宮津の人々が一体となり、将来の住む街、住む里について、

論じ合わなければなりません。

先日実施されました上宮津地区駅伝大会の小学校チームの活躍は、地域の人々に大きな感動とエネルギーを与えました。

上宮津の再生を考える時、若者が定住してくれる里にするためには、保育所や小学校の必要性が強く印象付けられました。

「集い」「学び」「結ぶ」が公民館のモットーです。

地域社会の、文化や潮流を的確に読み、話題を共有化しながら将来のビジョンを作ること。これぞ公民館の理念に合致するものです。

こんな時代だからこそ、社会教育の現場である地域の活性化と福祉向上のために、公民館はその一翼を担わなければならないと考えます。



盆踊りに来て下さい



本年度の公民館事業

◇地区全体

- 上宮津駅伝 六月十三日
- 盆踊り大会 八月十四日
- 敬老会 九月二十六日
- 運動会 十月十七日
- 文化祭 十一月十三・十四日

◇青少年体験活動

- 青少年健全育成懇談会 七月六日
- 上宮津谷を知ろう 十一月
- 新春おたのしみ会 一月八日

◇講演・講習会

- 防犯・交通安全教室 八月二十日
- 一般教養講座 十月中旬
- しめ縄講習会 十二月上旬
- 囲碁大会 二月上旬
- 男の料理教室 三月

◇同好会・サークル活動

- 短歌教室 毎月第3金曜日
- 陶芸教室 毎月第4土曜日
- 囲碁教室 毎月第2土曜日
- 太極拳 毎月第2金曜日
- バドミントン教室 毎週火土曜日

わが郷土を愛し 元気に育てよう

平成の時代に入ってから日本経済は低迷を続け国の税収が激減する一方、グローバル化と高度情報化によってこれまで日本経済の牽引役であった鉄鋼・自動車・電気などの主要産業は、労働力の安い海外に移転し、わが国の労働力は余剰となって人々の働く場所がなくなっていく。とりわけ国の交付金によって支えられていた地方経済は疲弊し、若者は職を求めて田舎を去り、農村の少子高齢化に拍車をかけることになったのである。

こうした農村地域の活性化を図るために京都府や宮津市は、里山の農村集落は命の里であるとして本年度わが上宮津地域を里力再生事業の対象として活性化の支援に乗り出すこととなった。

再生事業の目的は、限界集落の実態が増える中で農村集落が自立し元気な地域の里力を取り戻していくために新たな地域活性化の仕組みづくりにより行政が智慧と資金を援助しようとするものである。わ

自治連会長 細見 節夫

が上宮津も農村集落の少子高齢化が速い速度で進み、里山や田畑の耕作や管理は近い将来危機的な状況に立ち至ることが容易に想定される。

素晴らしい自然環境に恵まれた上宮津が将来的に産業も振興して働く場所が増え、都会に出て行った息子や孫も里に戻り、誰もが住んでみたい地域になることは、上宮津の地域住民のひとりひとりが夢見ていることである。だからこそ小学校の統廃合問題に対して平成二四年に上宮津小学校を廃止する宮津市の提案は、現時点においては上宮津の地域住民の総意は得られなかったのである。

再生事業は、六月一七日に開いた上宮津地域会議を皮切りにこれから本格的に始まる。

上宮津地域会議は、上宮津の六自治会、公民館、財産区、合同会社大江山スキー観光、上宮津21夢会議、社会福祉協議会上宮津支会、老人会、上小PTA、農家組合、民生委員の各団体の代表委員で構成され、この組織を受け皿として取り組んでいく。

はじめの仕事は上宮津地域に適した再生事業の検討体制の整備であり、多くの地域住民の提案が吸収できる仕組みを作りたい。また情報の共有化にも留意して取り組みたいと考えている。

上宮津地域の里力再生事業の取り組みは、地域住民の一人ひとりが自分自身の問題としてとらえ、積極的な参加のもとに進められるよう格段のご協力をお願いします。

「今福ふれあいサロンを」開き 「健康で長生きの秘訣」学ぶ



福井 愿則

今福地区はこのほど宮津市社会福祉協議会の「ふれあいサロン活動」に加盟し、第一回の催しとして、六月一日(火)午後今福公民館で、歯科衛生士さんを招いて「口腔機能向上教室」を開き、高齢者を中心に十七名が参加して、熱心に勉強しました。

歯科衛生士さんから二時間にわたって「お口(特に入歯)の手入れ」などの話を聞きましたが、これらの話は初耳のものばかりで、参加者は興味津々、熱心に聞き入り、健康で長生きするには「お口の機能向上」が大切であることが良く理解できて、とてもいい勉強になりました。

「今福ふれあいサロン」は、今後四ヶ月に一回程度開催し、健康教室やゲーム、お話し会などの催しを通じて、住民の絆を深め、お互いに支えあう機運を盛り上げたいと考えています。

農業文化祭の 作品募集

11月に実施の農業文化祭に皆様の作品を募集しますので今から準備して下さい。

- ・工芸品 手芸 絵画 生け花 書道 写真 盆栽 即売品など
- 多数の出品をお願いします。

当たり前のことを当たり前

上宮津小学校校長 安井 祐男

公民館関係の皆さんを始め、地域の皆様には、学校教育に格別のご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、平成二十・二十一年度文部科学省の指定を受け推進してまいりました「コミュニティ・スクール推進事業」は平成二十一年度末をもって終了致しましたが、学校としましては日常的な取組を地域の各団体及び地域の方の協力の下、従来どおり可能な限り継承していき、上宮津の豊かな自然や人材を生かしたふるさと学習の充実を努めて参りたいと考えます。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

来て当然と思っていることでも、小さいころから、大人が教えていなければ、当たり前のこととして出来ません。

例えば、「おはよう」「ありがとう」「さようなら」等挨拶は、当たり前でできて当然のことですが、やはりできていないのも事実です。挨拶は人と人との間での儀礼的な言葉、つまり、礼儀であることを、教えていなければ、「なぜ、挨拶をしなければならぬのか」という疑問しか返ってきませんし、自分から進んで挨拶をしようともしません。

家族の一員として、手伝いも当たり前にしてほしいことの一つです。料理の手伝いを例にしてみます。豆の下ごしらえをするとき、豆の皮に切れ目を入れて茹でると、汁が中までしみておいしい豆になるということを教えることで、大人になって料理をするとき、当たり前前に魚に飾り包丁を入れたりするようにもなります。理由がわかってしているのと分らずにして

いるのでは身に付き方にも違いが出てきます。

当たり前前かが当たり前前できる子どもに育てるためには、何故そうするのか私たち大人の行動を説明してやる必要があります。

また、子どもの行動については、逆に言い分を聞くことも必要かと思えます。

当たり前前にさせるということは簡単なようで難しいことです。家庭・地域・学校それぞれの場で、機会あるごとに一つ一つ指導していかねばならないと思います。



平成二二年度 宮津市人権標語

いじめはね 外よりなが いたいんだ

上宮津小学校六年 奥野湧太

きみとぼく どちらもおなじ ちきゅうじん

上宮津小学校三年 坂根魁星



今 奈良市では、平城遷都
1200年祭で色んなイベントが
催されています。

この5月1日から4日にかけて、
上宮津男三人(森山俊雄、粉川宗久、
私)が奈良時代に京都市内から宮
津まで歩いたであろうとされてい
る道順を尋ね歩いて辿る大冒険に
挑戦いたしました。

距離は140キロ(約36里)、桂
川にかかる橋辺りを起点として老
ノ坂峠から亀岡、丹波篠山、春日、
市島をぬけて福知山に入り、大江
元伊勢通り、毛原、辛皮、寺屋敷、
元普甲、金山に下りて上宮津公民
館前までの道程でした。

車なら時速50〜60キロ快適な
ハンドルさばき、エネルギーはガ
ソリン利用のところを、時速4キ
ロでひたすら自己エネルギーのみ
で歩くというこのギャップを、身
にしみて感じたいとの意気ごみで
出発しました。

さすが3日目兵庫県柏原市、市
島辺りで、足の豆だらけを潰し体
力の限界とも戦いながらひたすら
遠くの山並みにひかれるように只

白石 裕久

一歩一歩足を引きずり始めたその
時、上宮津から粉川正太郎さん・
紀子さん、中村奈美子さんが小香
河太刀姿の装いで応援にかけつけ
て、丹波竹田の宿まで挫折寸前の
私を無理やりひっぱってくれまし
た。またその日の宿は、昔は地域
の重要な旅籠でしたが、今はひっ
そりとした佇まいの古い建物でし
た。夕飯時、同世代現女将さんか
ら今昔浮き沈みの話をしみじみ聞
いて、明日頑張つて上宮津まで辿
りつかねばならない気持ちになり
てられました。



旅姿の三人の出で立ち振る舞い
は、粉川宗久は作務衣で表題の描
いた御旗を掲げ、古道標石の探求
をしながら上宮津祭り道中笛を分
岐道で吹き先導役。森山俊雄は山
岳姿で出来るだけ古道探索してそ
こを歩き、街道住民さんとの出会
いを楽しみ、会話を心がけていま
した。私は金山奴の法被にすげ笠
杖をついてただ歩くだけ(気持は
お遍路さん)でしたが、別に三人
三様の秘密の念願を抱いておりま
した。

4日目午後辛皮を通り、寺屋敷
では八尋住職さんのお迎え(ここ
で段取りよく死ねないなあど気合
いをかけ)元普甲峠を越えて金山
に下りてきた時は、意識も半分、
目も霞んできていました。その時
金山で美人美穂子さんの笑顔に感
わされて公民館まで這つてでも行
かねばと歩きに力がかかりました。
また孫が気付いてかけより手を引
つ張つて一歩一歩、5区6区7区
と下り坂道にも助けられゴール!
公民館前では予想だになかった
歓迎騒ぎに気も目も動転しました。
な、なんと! 数百人のお出迎え、
錦織のゴールテープカット さら



合掌

にドデカイくす玉割り祝福の嵐に
仰天しました。(ちよつとオーバー)
今思い起こすと 古の旅(旅と
言つても村の重要な職務仕事を携
えて)は命がけの事だったと実感
しました。
歩という字は、止が少と書きま
すね。将棋の歩の役目の様に一コ
マーコマ後ずさりに耐えて前進が
大事で、いつかは(と金)を夢見
て、止に多という字にならないよ
うに、日々の生活に生かしたいと
思いました。
皆さん!そして道中声かけして
くださった見知らぬ方々ありがと
うございました。
感謝感激の旅だったと思ひだして
おります。

4日間 お疲れ様でした。男のロマンですね。
なかなか出来ることではありませんが、うらやましい限りです。

上宮津駅伝競走大会

上宮津体育協会会長
粉川 正太郎

6月13日(日)に恒例の第27回上宮津地区駅伝競走大会を開催しました。

今回の大会は、上宮津地区体協30周年記念の大会となりました。今日まで体協を支えてきていただきました多くの関係者の皆様に深く敬意を表したいと思います。

30周年の記念大会に当たり、15回以上出場の10名の選手の皆さんの表彰をさせていただきました。最多出場は、22回出場の古井元也さんです。選手の皆様には、今日まで大会を盛り上げていただき本当に有難うございました。

さて、本大会では、10チーム約150人の選手の皆さんに走っていただきました。自治会対抗は小田、喜多、天神、鳥が尾チーム、自治会対抗フリーの部で今福・喜多の合同チーム、オープン参加の部では、山楽会チーム、ドリームチーム、今年の朝ドラで話題のゲゲゲのチーム、小学校教職員・PTAチーム、そして小学生17名の皆さんのチームと多彩なチームの参加で、賑やかで楽しい大会となりました。

成績は、自治会対抗では、喜多チームが大会新記録で優勝、2位が鳥が尾チーム、3位が天神チームという結果になりました。また、喜多チームで7区を走られました山下由夏さんが区間新記録を出されました。本当におめでとうございました。

地区体協の皆さん、また、当日役員としてご協力をいただきました地区の皆様及び関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。大会の報告とさせていただきます。



30周年記念

15回以上出場選手のみなさん

(敬称略)

22回	古井	元也	(喜多)
18回	宮野	勉	(喜多)
18回	山下	豊秋	(喜多)
18回	武部	薫	(天神)
17回	細見	重彰	(喜多)
16回	杉谷	馨	(小田)
16回	伊藤	秀樹	(喜多)
15回	井上	吉一	(旧姓古井・喜多)
15回	谷川	伸吾	(天神)
15回	安部	四郎	(鳥が尾)

今後のご活躍を期待しています

子育て支援『家庭や地域での関わり方』

去る、七月六日、青少年健全育成懇談会を実施し、講師に熊本敬一先生をお迎えしました。健全な子育てに家庭や地域はどうあるべきかを話していただきました。養護施設や寮で非行歴や情緒障害を持つ子供たちと生活を共にされ矯正活動をして来られました。福知山児童相談所を退職されましたが、その間の経験をもとにいくつかの例を挙げて話していただきました。

まず近所の子供を叱るのは小学校三年生になつてからにすること。家庭ではお母さんだけでなく、必ずお父さんの出番を作っておくこと。お母さんだけが、場当たりにガミガミ怒るのは効果がない。叱られている事が理解できる年齢に達した時、ふさわしい時間にするのが大切である。

また家族間での会話は良好な親子関係を醸成するには重要であり、夜は早めに消灯をするといった生活リズムを守ることによって学業成績の向上にも結び付くなど興味深く聞きました。

会場には民生児童委員、保育所、小学校の先生も居られましたので、対話援助者の専門性についての話もいただきました。指導者の心構えとして重要なのは自分の知らないこと、出来ないことは自己研鑽に励み、逆に知っている事には、すぐれた洞察力、判断力、それに理論化された言語説得力で常に相手の尺度で物を見て優しく接してあげることである。

先生は、宮津市内で育児の心配のある親子を対象に子育てサロンを開設されています。お遊びをしながら子供の将来についてお話をされてはいかがでしょう

22年度 地区役員紹介

公民館運営審議会委員

(敬称略)

- 太田喜尚 (小田自治会会長)
- 細見節夫 (喜多自治会会長、上宮津自治連合会会長)
- 福井愿則 (今福自治会会長)
- 新 猛 (天神自治会会長)
- 小松裕幸 (鳥が尾自治会会長)
- 中嶌陽太郎 (松縄手自治会会長)
- 細見政寛 (上宮津財産区管理会会長)
- 岡 伸侍 (合同会社大江山スキ一観光代表)
- 杉田喜美代 (民生児童委員常務、市社協上宮津支会長)
- 安井祐男 (上宮津小学校校長)
- 小谷千恵子 (上宮津保育所所長)
- 粉川正太郎 (上宮津地区体育協会会長)
- 松岡照幸 (宮津市体育指導委員)
- 八尋慈教 (上宮津 21 夢会議代表)
- 中田詩紋 (上宮津保育所保護者会会長)
- 鈴木正義 (上宮津小学校PTA会長)
- 藤田淳志 (上宮津青少年後援会会長)
- 坂根篤志 (天神青少年後援会会長)
- 谷中武司 (鳥が尾青少年後援会会長)
- 武若 治 (千歳会会長)
- 奥野重治 (今福福寿会会長)
- 吉田喜久男 (上宮津青壮年部部長)
- 智原芳明 (上宮津地区公民館長)
- 粉川紀子 (公民館主事・自治連事務局)

青少年体験活動推進委員

(敬称略)

- 太田敦久 (小田)
- 細見秀史 (喜多)
- 宮本真人 (喜多)
- 長林尚之 (今福)
- 高奥信也 (天神)
- 斎藤和子 (天神)
- 岡田英丈 (鳥が尾)
- 岡田恵美子 (鳥が尾)
- 松岡照幸 (松縄手)

公民館活動推進委員

(敬称略)

- 白石裕久 (小田)
- 八尋尚美 (小田)
- 寺下博文 (喜多)
- 智原保孝 (喜多)
- 中川昭一 (今福)
- 奥野利貞 (今福)
- 森山俊雄 (天神)
- 大江芳松 (鳥が尾)
- 岡本恭次 (松縄手)

